



H・P・C 通信

学校教育目標 「ハート」「パワー」「チャレンジ」～わたしらしくあなたらしく～

PUSHプロジェクト ～もし目の前で人が倒れていたら、わたしにできることは？～

令和6年12月16日（月）6年生児童を対象に、福岡記念病院の日下医師、唐津赤十字病院の長嶋医師、熊本看護師ほか「唐津PUSH」の皆様を講師に招き、PUSHコース体験・講話を開催しました。

「PUSHプロジェクト」は、胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAED（自動体外式除細動器）の使い方の普及を通じて、突然倒れた方を救命できる地域づくりを目指すものです。また、「PUSHコース」とは、これを短時間で効率よく学習できるように工夫されたプログラムです。

市内では「唐津PUSH」という組織が、この理念のもと、PUSHコースの研修を、3歳児から成人までを対象に推進されています。

また、学校で行うPUSHプロジェクトを「学校PUSH」として、右のような目標を掲げています。学校PUSHは、命を大切にする教育活動として全国的に広まりつつありますが、九州での実践事例は少なく、今回、成和小学校で行われたPUSHコース体験・講話は、佐賀県内の小中学校では初の先進的な取組となっています。今後は、PUSHプロジェクトを通して、**地域（公民館）と学校（成和小）と医療（日赤）**を結ぶ「**成和トライアングル**」として連携を継続し、成和小学校全体で取り組む教育活動、ひいては市内の学校への広がりを目指しているものです。

体験・講話当日は、「あっぱくん」という心肺蘇生の学習キットを活用して、児童が、胸部圧迫やAEDの使用方法などの体験学習に取り組みました。



学校PUSHの目標

- 学校教育に実践的な救命教育（心肺蘇生やAEDの使用方法など）を導入する
- 学校の先生が自ら救命教育を行える環境作りをサポートする
- 小学校から、心肺蘇生やAEDの使い方を繰り返し学べる学習環境を整える
- 実践的な教育を行うことで心停止に遭遇した際、何らかの行動を起こせる人材を育てる

※ 心臓突然死の国内年間死者数は約7～8万人、1日に約200人、7分に1人が亡くなっており、学校管理下ではR5年度だけで6件発生しています。

成和トライアングルの連携

- 6年生を対象とした、「PUSHコース体験・講話」の開催
- 学校とまちづくり協議会との協働による花植え活動と、日赤への花苗プランターの寄贈交流
- 保護者を対象とした「PUSHコース研修」の開催
→ R7.2.13（木）授業参観日に教育講演会として実施予定



安全集会 ～私たちは忘れない～

【安全集会での校長講話より】

この成和小学校では、今から30年前、悲しい事件が起こりました。平成7年1月31日、午後3時ごろに、成和小学校1年生の男の子の大切な命が奪われました。当時、7歳の男の子でした。命を奪われることがなければ、今37歳、立派な大人になっていたことでしょう。男の子は、下校途中、知らない男の人の暴力に合い、大切な命を失ってしまいました。大きな大人に小さな大切な命を奪われたのです。男の子のお家の方も、とても悲しく、くやしい思いをされ、その頃の成和小学校の子供たちや先生方、そして地域の方々も、涙にくれました。

このようなことは二度とあってはなりません。そのため、この成和小学校では、毎年この時期に、安全集会を行っているのです。あのような悲しい事件が、もう二度と起きないように、児童には2つのことを伝えます。

1つ目は、**学校のきまりを守る**ということです。危険な場所に行かない、近づかない。また、子供だけで校区外へ出かけません。バスや電車には大人と一緒に乗ります。知らない人について行きません。どんなに誘われても、何か上げると言われてもついて行ってはいけません。家に帰る時刻は守ります。きまりをしっかり守ることは、皆さんを危険から守ることにつながります。

2つ目は、**地域の人にしっかり挨拶**をすることです。「挨拶のある街には、不審者はいない」と言われます。挨拶には怪しい人物を遠ざける力があるのです。皆さんが、もし登下校中に、困ったり危険な目にあったりしたときに、挨拶をしている地域の人には、助けを求めやすいはず。また、地域の人、皆さんがいつもと違う様子だと、「おや、おかしいぞ」「だいじょうぶかな」「何か困っている？」という目で見てくれるのです。

この2つを心がけ、成和小の一人一人が、自分の命は自分で守ることができる子供でいてください。



川口克也先生からのメッセージ

本校に学校用務員としてお勤めの川口克也先生は、事件当時、被害にあわれた児童と同級生の保護者だったそうです。その時の思いを胸に、集会では児童にお話をさせていただきました。あわせて、保護者や地域の皆様にもメッセージをいただきました。（以下、川口先生のメッセージ）

私は、4月より用務員として勤務しております、川口と申します。昨年度までは、第五中に5年間勤務しておりました。今年度より成和小ということで、いつも子供たちの元気で明るい声に元気をもらい、楽しく仕事をさせてもらっています。

さて、私の長女が小学1年生の時、悲しい出来事がありました。幼稚園から一緒に同じクラスの隣の席の男の子でした。その知らせを聞いて、次の日の朝、学校に行くと、何人かの保護者の姿があり、不安な表情でした。同じ子を持つ親として、何て表現していいのかわからず、悲しくてはがゆくて、ものすごい怒りを感じたのを今でも思い出します。自分の子が小学校卒業～中学～高校～成人と成長するたび、彼が元気だったら…と思うことがあります。成和校区は交通量も多く、大型商業施設、娯楽施設等がたくさんあり、市内だけでなく、市外や他県からの人の出入りがあり、不特定の人間が過ごす地区です。保護者はもちろんのこと、地域の方々には、自分の家族だけではなく、まわりの子供たちにも目を向けて、見守りをしていただけると強く思います。